

「絵本は心のミルク」

学校法人成田学園 希望ヶ丘こども園
園長 相樂悦子

絵本は乳幼児にとって「心のミルク」と呼ばれています。子ども達が食べ物でいろいろな栄養をとるように、絵本で子ども達の心はバランスよく健やかに育つといわれています。

乳児期の絵本の経験は親子の絆を一層深く形成します。お父さんお母さんが日常生活の中で心のこもった豊かな語りかけをしたり、豊かな言葉の宝庫である絵本の読み聞かせをしたりすることで、子ども達は知らず知らずのうちに言葉の楽しさや面白さ、そして豊かな想像力と心を身につけることができます。

幼児期になると、「園で読んでくれるから」とか「一人で読んでいるから」と読み聞かせをやめてしまう家庭が多くなると聞いています。もちろん園で先生から読み聞かせを聴く経験はとても大切です。しかしながら家庭では、自分で選んだ好きな絵本を、大好きなお父さんお母さんから、ゆったりと読んでもらえる楽しさや、親子だからこそ家庭の生活経験を基にして語り合える時間は、かけがえのない時間といえます。ときにはお気に入りの一冊の絵本を、何週間もはなさない子どももいますが、これもまたとても素晴らしいこと。夢中になれる一冊の絵本を発見できたということは、幼児期に人生の宝物を見つけたということではないでしょうか。読み聞かせを何回もせがまれるお父さんお母さんは大変かもしれませんが、これはうれしい成長と、繰り返し読んであげていただきたいと思います。また絵本の文章をすっかり覚えてしまう子どももいますが、その子の言葉の体験と発達にとって素晴らしい姿といえます。国語教育では、とても実現することのできないくらい、深いところで、言葉に対する力をしっかりと身につけている印です。小学校に行っても先生のお話をしっかりと聞いたり、自分の考えをしっかりと表現したりすることができる子どもになることと思います。

本園では毎日、朝と帰りのお集まりの時間に、子ども達が大好きな「絵本の時間」があり、先生達は子ども達に多様なジャンルの絵本の読み聞かせをして、子ども達は楽しい時間を過ごしています。家庭でも絵本を楽しんでいただこうと、図書室にある絵本、保育室にある絵本などすべての絵本の貸し出しを行い、たくさんの親子が利用しています。絵本のリサイクルも保護者の皆様のご協力で実施し、今図書室は本であふれています。

お父さんお母さんが子ども達に絵本を読んであげられるのは、そんなに多くの日々ではありません。あっという間のこの貴重な時間を親子が寄り添い、互いのぬくもりを感じながら楽しんで絵本を読んでいたいただきたいと思います。